

【様式 2】

学校関係者評価書

学校名 佐賀県立牛津高等学校

1 学校関係者評価実施状況

(1) 学校関係者評価実施日 令和 6 年 3 月 1 5 日 (金)

(2) 資料 (評価の参考とした資料)

令和 5 年度学校評価結果についての詳細

令和 5 年度学校評価アンケート結果

学校魅力化評価システムアンケート結果

2 評価

(1) 学校運営について

① 目標の妥当性及び達成状況

取組目標については、具体的な数値目標が示されており、またその数値目標が実現可能なものであり、妥当であると考えます。また達成状況についても、いくつか目標に達成できなかった項目があるが、概ね達成できていると考えます。ただし、いくつかの項目については、数値目標が設定されておらず、取り組みの達成状況が客観的に評価しにくいものがあった。

② 学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

学校長の示す学校経営方針に基づき、明確な目標に向かって学校運営がなされていることが確認できたと考えます。

特に「心の教育」については、学校長をリーダーとして全職員が積極的に取り組んだことから、良好なアンケート結果（「豊かな心を育成する教育が行われている」に対して肯定的な回答をする生徒が 95%にも達する）となったものと考えます。また、「いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実」においても、数件の覚知はあったものの、重大事態になっていないなどのある程度の成果があったと考えます。この重大事態に至っていないのは、教職員が普段から生徒とコミュニケーションをとっていることが、事前にいじめ防止の効果があったのではないかと考えます。このような普段の教職員の取組は、学校長の「生徒が安心できる学校にしたい」という強い意志が全教職員に浸透しているためだと考えます。

取組内容「業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減」については、改善のための取り組みを行っているのは理解できるが、特に改善されたという印象はない。

重点取組内容「選ばれる学校に向けた県内外への情報発信」では、県内外からの入学者を増加しようという取り組みであるが、数値目標を達成できていると考える。県内外の中学校への情報発信や体験入学・学校見学会を実施する等、教職員の不断の努力が功を奏したものとする。

以上のことから、自己評価においても、妥当な結果だと考える。

③改善方策の適切さ

改善方策については、「具体的取組」の内容に関する学校の説明により、生徒の視点で改善に取り組んでいることがわかり、学校長のリーダーシップのもと、適切に運用されているものとする。

(2) 教育活動について

①目標の妥当性及び達成状況

取組目標については、具体的な数値目標が示されており、またその数値目標が実現可能なものであり、妥当であるとする。また達成状況についても、いくつか目標に達成できなかった項目があるが、概ね達成できているとする。ただし、いくつかの項目については、数値目標は設定されているが最終評価で数値が明示されておらず、取り組みの達成状況が客観的に評価しにくいものがあった。

②学校の取組状況の適切さ及び自己評価結果の妥当性

教職員の適切な指導のもと、明確な目標に向かって教育活動がなされていることが確認できたと考える。

中でも、評価項目「学力の向上」に関するアンケートにおいて、「授業で主体的に取り組んでいる」の生徒が89.2%となり、目標の80%を超えている事は特筆すべきこととする。評価項目「健康・体づくり」については、成果目標（「健康に良い食事をしている」と考える生徒を50%）を大きく超える82.9%のアンケート結果から、多くの生徒が食事の自己管理について意識している事がわかる。取組内容「志を高め、他人のために働く事ができる生徒の育成」においては、生徒が働く事の意義、働く事の大切さについて意識が高い調査結果（98.7%）となっていることは、専門高校である牛津高等学校の特色が出ているのではないかと考える。取組内容「魅力化評価システムを活用した学校改善」において、「自分の学校を中学生に勧めることができる」の結果が81.1%、教職員では91.2%と高い結果であることから、生徒や教職員が牛津高等学校の一員であることを誇りに思っている証拠であるとする。また、「地域の魅力や資源について考える」という項目では、7月のアンケート結果と2月のアンケート結果の比較において、数値が20%高くなったとの報告があった。要因としては、インターンシップや地域連携講

座の実施、ボランティア活動の拡大などが影響しているのではないかとの説明があり、納得することが出来た。これも牛津高等学校らしさを表している結果ではないかと考える。

以上のことから、自己評価も含め適切に運用されていると考える。

③改善方策の適切さ

生徒の視点で改善に取り組んでおり、着実に数値結果として表れていることから改善方策が適切であることを証明していると考ええる。

3 その他学校に対する意見や提言

- これからも様々な取り組みを行っていくと考えられるが、取り組みを実現するためには、様々な団体等と協働していく必要があると考えられる。特に地元自治体である小城市及び地域の方々と連携を深めていくことが大切ではないか。
- この魅力強化委員会で、生徒の意見を直接聞きたい場合もあり、必要に応じて（場合によっては、年度の初めから）生徒が参加できる機会ができないか。
- ワークショップの形態やグループ協議などを取り入れられたので、意見を述べやすくなりよかった。あとは、議論したことをまとめて運営へ反映することができるような形になるように展開してもらいたい。